

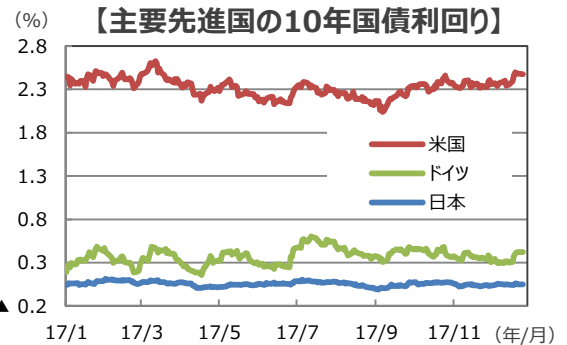


今日のトピック 2017年の世界債券市場の振り返り

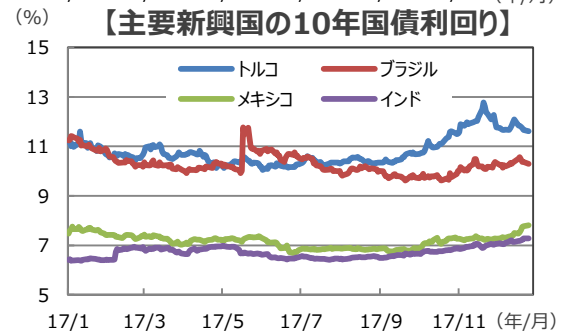
概ねボックス圏での推移

ポイント1 米国債利回りは年後半にやや上昇 米景気の持ち直しなどが背景

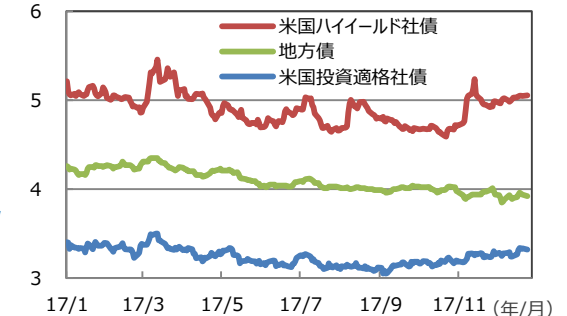
- 2017年を通じて金融緩和策を継続した欧州（ドイツ）と日本の10年国債利回りは狭い範囲での推移となりました。一方、米国債利回りは、3月に一時2.6%台まで上昇したものの、概ね2.2%～2.5%の範囲で推移しました。こうした中、9月上旬に2.1%を割り込んだ後は、緩やかに上昇する展開となりました。しかし、2.5%を超えることはありませんでした。
- 新興国の10年国債利回りも概ねボックス圏での推移となりました。こうした中、トルコ国債の利回りは上昇傾向となりました。インフレ率が上昇する中で、中銀が利上げを行わなかったことや政情が悪化してトルコリラが急落したことなどが背景です。11月下旬をピークに水準訂正が進み、12月には利上げもあり落ち着きを取り戻しつつあります。



▲



【米国の地方債・社債利回り】



(注1) データは2017年1月2日～2017年12月26日。米国の地方債・社債は1月3日から。日本国債は1月4日から。

(注2) 地方債利回りはBond Buyer米国地方債40種指数、投資適格社債利回りはUS Corp Master Index、ハイールド社債利回りはUS High Yield BBB Indexの利回り。

(出所) BofAM、Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 ハイールド債は秋まで堅調 地方債等の変動性は低水準で推移

- 米国の地方債の利回りは緩やかに低下しました。投資適格社債も緩やかに低下しましたが、9月以降はやや上昇しました。いずれも変動性の低い状況が続きました。そうした中、ハイールド社債は、変動を伴いつつも、秋まで総じて利回りが低下しました。その後、年初からの反動などもあって利回りは上昇に転じました。

今後の展開 長期金利はやや上昇する見込み

- 2018年は米連邦準備制度理事会（FRB）がバランスシートの縮小を継続し、欧州中央銀行（ECB）が買取資産の圧縮を進めるなど、欧米の金融政策が変化します。新興国の景気拡大なども合わせて考えると、世界の長期金利はやや上昇する見通しです。ただ、物価上昇率が低く、欧米の金融政策の変更も極めて緩慢なため、長期金利の上昇は緩やかな変化にとどまりそうです。

ここもチェック! 2017年12月14日 米国の金融政策 (2017年12月)
2017年11月29日 米国債券市場の動向 (2017年11月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。